

4月に新聞に掲載された作文は、5作品

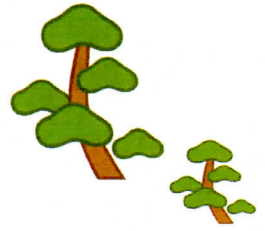
今年度も子ども達の作文を新聞に投稿しています。4月に新聞に掲載された作文は、5作品となりました。子ども達の感性がキラリと光る作品ばかりです。

松の植樹を誇りに思う

宜野座中学校1年 当真晴貴

今日、松田小学校正門そばの松林で松の植樹を行いました。
植樹をする前に、宜野座博物館の田里さんから、この松林のことについて、お話を聞きました。
約百四十年前、首里の士族であった汀良タンメーという人が仕事ばかりしては、楽しくない、つかれが残るばかりだと考えて、農村の娯楽施設のひとつとして馬場を作り、草競馬を楽しんだと言われているそうです。草競馬と言っても、ただ馬を走らせて競争を楽しむのではなく、「琉球競馬」といって、スピードだけでなく、その走りの美しさも競われたそうです。

田里さんは、「琉球競馬は、フィギュアスケートみたいなもので、スピードだけでなく、その美しさも競うことになっているんだよ。」と表現していました。
そんな大切な馬場の跡に、僕達6年生が10本の若い松の苗を植樹することができて、とても誇りに思いました。
(沖縄タイムス 4月2日掲載)



ねえねえの放送うまい

2年 しんじょう あいら

きょう、きゅうしょくのじかんにあいいねえねえが、放送をしていました。
ねえねえは、学校にいくまえに「きょうは、放送をするよ。」と、えがおでいっていました。
どんな放送をするのか、とてもたのしみでした。
ねえねえは、きゅうしょくのこんだてについて、放送をしていました。とてもじょうずでした。
わたしも五年生になったら、ほけんきゅうしょくいいいんになって、放送をしたいです。
(沖縄タイムス 4月10日掲載)



赤ちゃんがうまれた

2年 がなは じょう

きのう、おかあさんのおなかから、赤ちゃんが生まれました。生まれたじかには、八じ四十七分、けっこう早いなあとおもいました。
だいたい人は、よなかに生まれるときいたことがあります。それに、お母さんは、にゅういんしたばかりの日に、赤ちゃんを生んだので、ほんとうにすごいなあとおもいました。
お母さんと赤ちゃんに早くあいたいです。赤ちゃんは、これからどんなふうになくなるのか楽しみです。でも、ほくのよそうのとおりだと思えます。
赤ちゃんを見られる日は、もうすぐです。
(琉球新報 4月17日掲載)



父がつくった料理おいしい

2年 もろみ りいこ

今日のゆうはんは、ぶたのしゃぶしゃぶ、チーズ入りオムレツ、ほうれんそうときのこのバターいためでした。
お父さんがつくってくれたそのごはんは、とてもおいしかったです。おいしすぎて、ごはんをおかわりしました。
そのあと、一かいきゅうけいして、あさりのおみそしるをのみました。
すると、お父さんが「りいこ、すごい。これぜんぶたべたら、お父さんとおなじぐらいたべているよ。」といいました。わたしは、にこにこわらいながら、「こんなおいしいごはんなら、またたべたい。」といいました。
おかわりをいっぱいして、大きくなりたいです。
(沖縄タイムス 4月22日掲載)



最高のクラスに

6年 島田琉志

僕は、児童会長として、みんなをまとめられるリーダーシップが発揮できる六年生になりたいです。そのために、みんなのお手本となるように、日頃からやるべきことはきちんとできるようにしていきたいと思っています。
一年間皆出席を目指して、頑張りたいと思っています。
僕達は、6年間同じクラス仲間です。でも、最上級の学年として、優しく相手を思いやることのできる素敵なクラスにできたらいいと思っています。
そのために、人のいやがることをしない、困っている人がいれば、助けてあげられるようにしていきたいです。
この一年間が最高の思い出になるように、最高の六年生になれるように頑張っていきます。
(琉球新報 4月22日掲載)

